

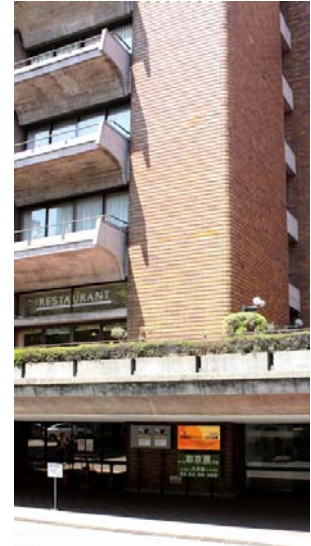
県内建築系学生奨励事業

## 第 11 回 卒業設計コンクール展 開催

今年は第 11 回目の開催。昨年節目の 10 周年を迎え、今年は新たな気持ちでの第 1 歩となりました。県内の建築設計に関する全ての団体が共催するイベントとしての再スタートとなりました。学生諸君の作品も力作が揃い、コンクールを盛り上げてくれました。

### ■開催主旨

都市や建築デザインにも ICT 革命時代にふさわしい斬新な発想が求められている。そのような中、新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上・育成を図る目的で、次代を先取りした意欲ある作品を広く募集し、若い学生達の考えた創造価値と熱意を奨励し、また一般の方々にアピールを行う。



受賞された皆さんと記念写真



最優秀賞を受賞した高野祐太さん



表彰式会場にて  
衣袋委員長と桑子会長



審査委員の方々、出展した学生の皆さんが一堂に会した表彰会場  
ケーキとお茶で一見和やかな雰囲気…



テレ玉のテレビカメラも入り  
ました

ただ今審査中…



ただ今審査中…



# 第11回 卒業設計コンクール実施要領

## ■ 参加校

芝浦工業大学・東洋大学・日本工業大学・東京理科大学・東京電機大学・工学院大学・日本大学  
武蔵野美術大学・ものづくり大学

## ■ テーマ

各人の選定したテーマによる。  
地元「埼玉」について積極的に考え、課題を掘り起こした作品を「埼玉賞」として設ける。  
したがって「埼玉」をテーマにした作品を多数期待したい。(最優秀賞と合わせて受賞する場合もある)

## ■ 募集作品

卒業設計を対象とし、個人作品とする。各学校3作品以内とする。  
ただし、埼玉賞に関しては各大学3年生以下の1作品出展可。

## ■ 賞について

最優秀賞	1作品…最も優れた作品(副賞として海外研修旅行目録・30万円相当)、 (さいたま住宅検査センターの目録含む)
埼玉賞	1作品…埼玉を題材とした優れた作品(副賞として10万円相当の目録)
優秀賞	2作品…優れた作品(副賞として10万円相当の目録)
特別審査員賞	3作品…各大学の先生による審査とする(副賞として3万円相当の目録)
さいたま住宅検査センター賞	1作品…住宅を題材とした優れた作品(副賞として20万円相当の目録)
総合資格学院賞	2作品…社会に飛び出す若駒のエネルギー溢る作品(副賞として5万円相当の目録)
JIA埼玉賞	1作品…優秀な提案、建築家に相応強い作品(JIA埼玉賞のうち、JIA本部 (応募規定に当てはまる作品は、本人の意思を確認の上、JIA本部主催 全国学生卒業設計コンクールに埼玉代表として推薦する。)

奨励賞 適宜

## ■ 審査方法

公開審査で行う。質疑応答を含め一人5分のプレゼンテーションを行い、その上で各審査委員の  
持点で採点し当日決める。詳細は当日案内する。

## ■ 審査員

### ■特別審査員

芝浦工業大学(審査委員長)  
//  
日本工業大学  
東洋大学  
東京理科大学  
東京電機大学  
工学院大学  
武蔵野美術大学  
日本大学  
ものづくり大学  
埼玉県都市整備部建築安全課  
さいたま市建設局建築部営繕課  
(社)日本建築学会埼玉支所  
日本建築家協会JIA埼玉  
(社)埼玉建築士会  
(社)埼玉県建築士事務所協会  
(財)さいたま住宅検査センター  
(株)竹中工務店東京本店 設計部

衣袋 洋一 先生  
菊池 誠 先生  
吉村 英孝 先生  
篠崎 正彦 先生  
山名 義之 先生  
岩城 和哉 先生  
倉田 直道 先生  
菊地 宏 先生  
川岸 梅和 先生  
大島 博明 先生  
能見 正 課長  
齋藤 常三 課長  
樋口 和男 幹事  
鶴崎 健一 副代表  
増谷 治郎 副会長  
佐藤 啓智 副会長  
小松原 明 常務理事  
堀口 譲司 部長

### ■一般審査員

協会会長 桑子 喬  
相談役 高岡 敏夫  
// 片淵 重幸  
協会副会長 大川 紀夫  
// 長谷部 常美  
担当副会長 田中 芳樹  
特別委員会委員長 井上 忠孝  
委 員 金子 信弘  
// 高梨 智浩  
// 山田 慎一  
// 松崎 峰夫  
// 徳永 茂  
// 木川 元守  
// 村山 隆之  
// 原口 剛

## ■ 主催 共催 協賛 賛助 後援

(主催)	(社)埼玉建築設計監理協会	(協賛)	(社)埼玉県建設業協会
(共催)	(社)日本建築学会埼玉支所		(財)埼玉県建築住宅安全協会
	(社)埼玉建築士会		総合資格学院
	(社)埼玉県建築士事務所協会	(賛助)	各種団体、企業
	(社)日本建築家協会JIA埼玉	(後援)	埼玉県、さいたま市、テレビ埼玉
	(財)さいたま住宅検査センター		

## ■ 協賛会社 (順不同)

(社)日本建築学会 (社)日本建築家協会JIA埼玉 (社)埼玉建築士会 (財)さいたま住宅検査センター  
総合資格学院 大宮校・越谷校・川越校 清水建設(株) 大成建設(株) スミダ工業(株) (株)田中工務店  
柏木建設(株) 吾妻工業(株) (株)佐伯工務店 (株)八洲電業社 生和テクノス(株) TOTO(株)  
松坂屋建材(株) (株)東京黒板製作所 ナブコシステム(株) ピタコラム工法協会

# 出品作品・審査結果

(順不動)

最優秀賞	高野 祐太	日本大学生産工学部建築工学科 History Street Story ～にぎわいが記憶の付箋になる場所～
優秀賞	古俣 尚志	工学院大学工学部建築学科 深奥建築 一先へ先へと導く「奥」
優秀賞	畠山 鉄生	武蔵野美術大学造形学部建築学科 ひかりのくぼみ
優秀賞	手島 優	日本大学生産工学部建築工学科 隣のとなりも、「トナリ」
埼玉賞	矢野 拓洋	東洋大学工学部建築学科 ウサギの家
特別審査員賞 総合資格学院賞	中島 彬乃	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 踏切商店街 一にぎわいの広告
特別審査員賞 総合資格学院賞	中村 亮太	東洋大学工学部建築学科 移ろう空間
埼玉住宅 検査センター賞	青野 智史	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 可笑しな商店街
JIA 埼玉賞	八木 清太郎	ものづくり大学建設技能工芸学科 集まる・育てる・広がる ～新たな農業の提案～
奨励賞	吉田 尚平	東洋大学工学部ライフデザイン学部 果てのない建築は、旅をするように
〃	落合 政人	日本工業大学工学部建築学科 bi-style -2つのシェア生活-
〃	吉岡 大輔	日本工業大学工学部建築学科 水辺の表情
〃	増田 佳矩	日本工業大学工学部建築学科 Discover My Place -北の町化によるコミュニティ空間の提案-
〃	西川 博美	日本工業大学工学部建築学科 おいしいキッチン 一規模店舗が繋ぐ路地の世界一
〃	遠藤 貴之	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 遊食の工房
〃	三上 純子	工学院大学工学部建築都市デザイン学科 こどもみち
〃	石崎 佑樹	工学院大学工学部建築学科 Walkscape Museum ～視覚障害者に捧ぐ美術館～
〃	石井 彩	東京理科大学工学部Ⅱ部建築学科 Réglable 家族の向こう側
〃	宮澤 靖生	東京理科大学工学部Ⅱ部建築学科 微差から生まれるもの ～荒川放水路に建つ火葬場～
〃	占部 将吾	東京電機大学未来科学部建築学科 大地を縫うワンルーム
〃	本庄 麻美	東京電機大学未来科学部建築学科 出会い、つながる
〃	田中 裕一	東京電機大学理工学部創造工学系 GOKAKU
〃	村上 慧	武蔵野美術大学造形学部建築学科 小平マンション
〃	湯浅 里香	武蔵野美術大学造形学部建築学科 もうひとつの路地
〃	荒井 允斗	東洋大学工学部建築学科 社会復帰都市
〃	萩原 裕晃	日本大学生産工学部建築工学科 群がる戸建住宅
〃	大河内 綾子	ものづくり大学建設技能工芸学科 Human Nest つながる空間
〃	内藤 宏樹	ものづくり大学建設技能工芸学科 雑木林に埋めこんだタテモノ



## 受賞作品

最優秀賞

高野祐太

日本大学生産工学部建築工学科

History Street Story ～にぎわいが記憶の付箋になる場所～



戦争メディアと人との関り方を再考する。

図書館・映画館・ミュージアム・劇場を戦争メディアを発信する場とし、人々が戦争メディアに触れた時の感覚と日常の情景をリンクさせることができるような空間を付加した複合文化施設の提案を行う。





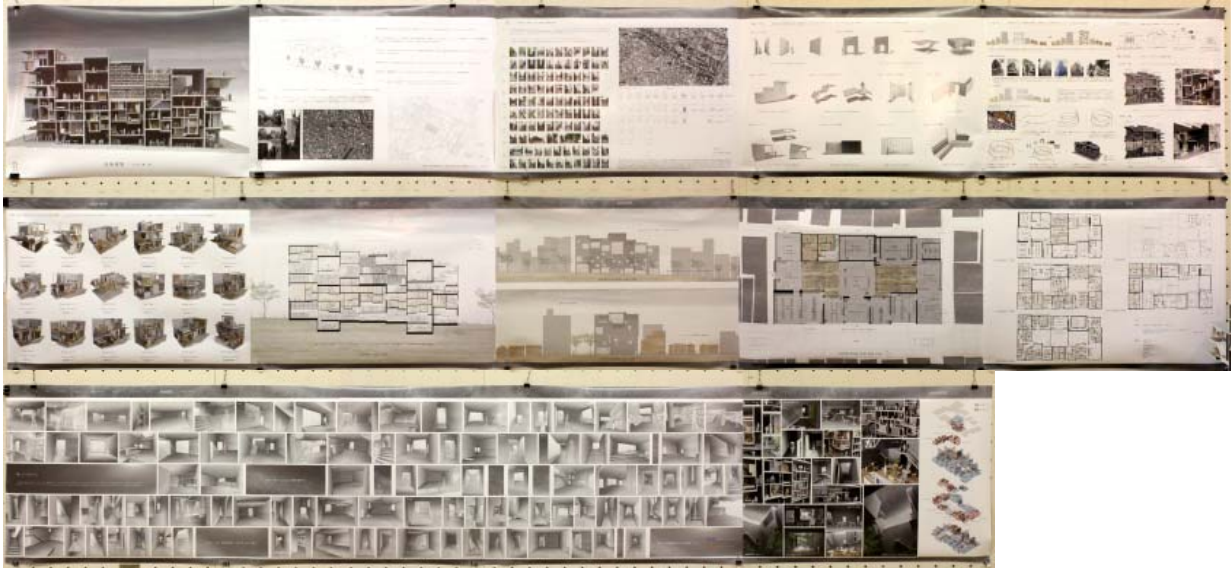
優秀賞

古俣 尚志

工学院大学工学部建築学科  
深奥建築 一先へ先へと導く「奥」



先へ先へと導く神楽坂の「奥」。様々な要素で構成される奥をモデル化し、建築内へ展開。建築内もどんどん街散策をしていくかのような、そんな街の延長上にある建築。



優秀賞

畠山 鉄生

武蔵野美術大学造形学部建築学科  
ひかりのくぼみ



敷地にはもとも地形としての高低差がついている。その差は7mである。その勾配にそいながら一枚の大きな面がかかる。それをグリッド状の梁が2.7mスパンでかかり、その梁高が0～訳6mの様々な高さの梁がちならび、三次曲面のような形がグリッド状に現れ、それらが地形の起伏や半地下空間と絡み合っていく。各グリッドはトップライトをもっており、梁の高さと太陽の入射角度の変化によって、季節や時間で様々な光を地面に落とし込む。その日その場所での光の雰囲気はそのときにしかあじわえないかもしれない。たとえば梁高が低く地面との距離が高いところではほぼ外部空間のような開放感をもち、逆に梁高が高く地面との距離が低いところでは内部空間に近い覆われた感じがする。そのような緩やかに空間の質がしきられ、それにそっていたり、もしくは一まとまったりと、空間を作る空気や光が、時間や季節によって刻々と変化していく。





優秀賞

手島 優

日本大学生産工学部建築工学科  
隣のとなりも、「トナリ」

コンパクトシティの形成や都心の人口集中が進む現在、その街の玄関口とも言える、駅前空間の土地利用によって街は大きく左右されると言える。そこで私は地下化に伴いできた緑地公園に、誰もが利用可能な公共空間を提案する。

リニアな土地のポテンシャルとして駅と駅を直接距離で歩ける導線が確保できる。また街に接する表面積が大きいいため、そこでの活動は街に染み出しやすいと考える。

緑地公園に導線としてだけでなく、そこに溜まるという行為を与えることで、“おとなりメディアステーションのアクティビティ”はまちにあふれだす。



埼玉賞

矢野 拓洋

東洋大学工学部建築学科  
ウサギの家

3つの「テクスチャーのレイアウト方法」と「それによって生まれる空間」を考えました。テクスチャーには地域の街路ファサードに用いられるものを使用します。これは、ファサードに見られる地域性の抽出や、記憶の継承を目的としています。





特別審査員賞  
総合資格学院賞

中島 彬乃

芝浦工業大学以仁工学部環境以仁学科  
踏切商店街 —にぎわいの広告—



開かずの踏切は“悪”なのか？  
今までネガティブなものとして捉えられてきた“あかすの踏切”。しかし、開かずの踏切によって生み出される長時間の多くの人の滞留は、貴重な集客力と言える。これを利用して、踏切上空に憩いの場としての商店街「踏切商店街」をつくる。踏切で待つ間に、電車を待つ間に、電車の中から、踏切商店街を眺める…。踏切上空に人が行動する場を設置することで、開かずの踏切を長時間待つ人の苛立ちを緩和させるだけでなく、駅周辺や駅利用者などに地域の賑わいを広告することが出来るのではないか。

特別審査員賞  
総合資格学院賞

中村 亮太

東洋大学工学部建築学科  
移ろう空間



今の建築は多くの人にとってどこか難しいもののような気がします。より多くの人と建築の良さを共有するためのきっかけの提案です。





埼玉住宅検査  
センター賞

青野 智史

芝浦工業大学システム工学部環境システム学科  
可笑しな商店街



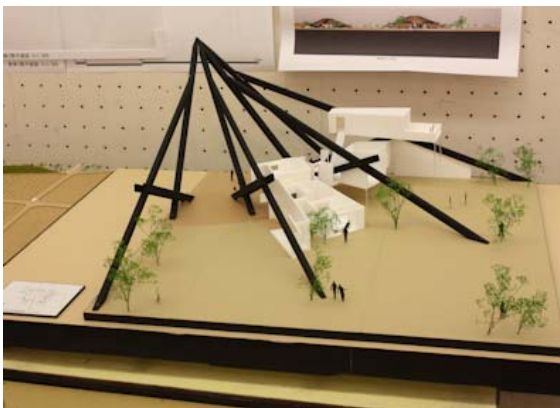
川越市は、一番街商店街に見られる蔵造りや大正浪漫通りなどのレトロな街並みが有名である。しかし、今や高齢者のための観光と化し、駅前のクリアモールではブランド店・チェーン店の参入が顕著になり、若者の街のイメージが強くなった。この街には、子供たちの気配が感じられない。そこで、この川越の地に“子供たちのための遊び場や溜り場としての拠点”を構築する。それは、既存の商店街と関わりをもつことで、従来とは異なる景色が広がる。



J I A 埼玉賞

八木清太郎

ものづくり大学建設技能工芸学科  
集まる・育てる・広がる ～新たな農業の提案～



私の地元である埼玉県本庄市の農業は、現在衰退しつつある。それは、農業従事者の高齢化や担い手不足等の問題によるものである。そこで本庄の農業に活気を取り戻そうと考え、多世代、多くの人々が体験、学習することができる農業施設を設計した。





## 総 評

審査委員長：芝浦工業大学教授 衣 袋 洋 一



最近の学部 Diploma の傾向がどうだろうかという点が気になる。次年度の学部 Diploma に大きく影響する某卒業設計展の「膨大な模型」「設計方法、美学的な単体としての建築への評価」である。提出された建築作品、選出された建築作品を見ると、社会へのメッセージが欠落している。将来建築家として職に就く学生の社会認識の欠落への不安、社会へのメッセージを発する建築ジャーナリズム不在への不安、本当にそれでよいのかという疑問と不安がある。

その中で、今回、当法人の卒業設計コンクールで最優秀作品賞に選ばれた「History Street Story ～にぎわいが記憶の付箋になる場所～」(高野祐太・日本大学生産工学部建築工学科)は、「戦争」と「日常」といったテーマ性、社会性、提案内容から審査員の多くが認めたものであると言える。しかし、残念ながら形態等はある建築作品をイメージさせるものであったと言わざるを得ない。が、全体の組み立て方、ストーリー等は「最優秀作品賞」にふさわしいものであることは言える。「模倣は創造の始まり」であるが、形態、空間に潜んでいる本質を理解することも大事であることを見失わないでほしい。

個人的には今年の埼玉賞「ウサギの家」(矢野拓洋・東洋大学工学部建築学科)はよかったと言える。扱っている素材(フィジカルなものとメタフィジカルなもの)、建築言語はローカル的であり、埼玉であり、その地域でしかないものであった。ユビキタス社会、平滑な社会に対して「非ユビキタス」なものを建築的に昇華し、建築が地域に生きつづけるためのひとつの提案であったと言える。前回は個別の講評は控えたが、今年は上記の点で興味ある作品が、それぞれのカテゴリーの中で選出された。これこそ、全国型ではない建築卒業展であり、主催団体の選抜としての特色であると言える。「地域」「地方」から何かを変える、また一人の人間が社会等に関わり何かを変える「いきごみ」が見られたと言える。

また、今年度、特別審査員賞の選出方法(テーマ性、技術性、空間・形態性等からの大学教員からのみの選出)を変えた。その結果、テーマ性が重要視された作品が選出され、昨年度までの漠然とした選出ではなく「佳作＝傑作」性が強い作品選出が得られたことは成果であったと言える。

最後に、提出された学生の中で賞には選ばれなかったからといって内容が劣っていると理解しないでほしい。人に訴えかけ、人を説得する(説明責任)プレゼンテーションが足りなかったことと反省し、更なる努力をしてほしい。受賞した諸君はさらなる努力をし、大きく建築界に羽ばたくことを期待する。参加された全員に言えることは「問題発見・解決」の能力とそれを社会・組織に訴えかえるコミュニケーション・プレゼンテーション能力を常に意識し、今後努力してほしい。

3月11日東日本大震災は、何を残し(残すべきものがないが、人の心の中、無形の共同体等)、何を新たに創るかが今後問われる。地域と関係した「建築単体」としての魅力創造のみではなく、建築群としての地域・共同体の「生き続けるまち(在来の都市・都市計画ではない)」の新たな魅力創造、地域の活性化の魅力創造等建築家と建築が試され、「まちづくり」が数十年をかけた試される。決してまち、町、街、地域を整理整頓をすることではなく、生きつづける「まちづくり」と生きつづける「建築・建物」であらねばならないと思う。

色々なことをバラバラに述べた。参加された諸君が各大学で選ばれたということを誇りにし、今後活躍することを期待する。

本卒業設計コンクールの準備等々に携わった(社)埼玉建築設計監理協会の会員の皆様に対して感謝の意を表します。ありがとうございました。